

第29回 都島メディカル・カンファレンス

日時：令和2年2月29日（土） 午後3時～5時

会場：大阪市立総合医療センター 3階さくらホール

対象：医療従事者

本会は、医師会と大阪市立総合医療センターが近隣の診療所・病院勤務医師の先生方や多職種の方々と、症例検討を中心にカンファレンスを行っています。

このカンファレンスを通じて診療レベルが向上し、相互の親睦も深まり、医療連携が促進されることで患者さんへより良質の医療を提供する一助となる事を目的としています。

症例

◆「救急外来において当科で診察した腎盂腎炎に関する検討」

初期急病診療部 山口 利昌

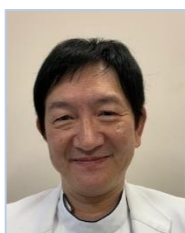
◆「術後に低ナトリウム血症を来した副腎腫瘍の一例」

総合診療科 埴岡 裕介

特別講演

◆「その泌尿器科疾患、緊急診療必要ですか？待てますか？」 ～尿路閉塞と尿路感染症を中心に～

泌尿器科 上川 禎則



泌尿器科部長
上川 禎則

実臨床において泌尿器科疾患が疑われた際、自院・自科で保存的治療が可能なものか、専門医の診断・治療が必要か、迷われることがあります。また、専門医に紹介するにしても、緊急の受診が必要か、後日の受診でも可能か迷われることもあるかと思えます。

救急で専門医の処置・治療が必要な泌尿器科疾患は多々ありますが、中でも尿路の閉塞性疾患や、複雑性の尿路感染は、治療のタイミングが遅れると生命の危険があります。これらの疾患を中心に診断のポイント、専門医への紹介のタイミングを、実際の症例を交えて解説させていただきます。



総合診療科部長
後藤 仁志

今回のテーマは泌尿器科疾患です。近年は高齢化に伴い多彩な泌尿器の症状を訴える症例が増加しております。ご紹介いただく患者様にも、多数の併存症を抱え、多種類の服薬をされており、それだけでも脆弱なところに泌尿器科疾患がさらに合併し治療に難渋する症例も少なくありません。当科からはいろいろ考えさせられるところのあった特異な経過を辿った症例を提示させていただきます。特別講演では泌尿器科部長の上川先生から泌尿器科のA to Zをわかりやすく講演していただきます。実臨床にすぐに役立つ内容ですので皆様ふるってご参加いただければ幸いです。



初期急病診療部担当部長
山口 利昌

「熱があるの？腰もだるいの？おしっこは近くなかった？じゃあ、尿路感染かな？まあ、腎盂腎炎かな・・・」当科では当院通院中の、あるいは地域医療機関から紹介された発熱患者を診療する機会が多く、尿路感染症は遭遇することが多い疾患の一つです。その中でも、腎盂腎炎の場合、病態によっては重症化することがあるため、迅速かつ適切な対応が求められる疾患とも言えます。典型的な症状を呈する腎盂腎炎の場合、診断や治療に迷うことは少ないように思いますが、患者背景によっては、非典型的な症状のために腎盂腎炎を見逃してしまうことも少なからずあるというのが臨床現場における印象です。今回、実際に当科が外来で診断した腎盂腎炎について、症状や検査所見などの特徴や傾向を検討してみましたので、ご参加いただいた皆様の日常診療にお役立ていただければ幸いです。

申込書・案内図は裏面をご覧ください。

第29回都島メディカル・カンファレンス（MMC）FAX申込書

大阪市立総合医療センター地域医療連携センター

申込FAX番号 06-6929-0886

お手数ですが、枠内にご記入の上、FAXにてご送信ください。ご参加いただける方のお名前の記載をお願いします。

なお、誠に勝手ではございますが、**2月22日（土）**までにご返信ください。

参加者氏名	
①	職種
②	職種
③	職種
④	職種
施設名	
施設所在地等	住所
	TEL

【案内図】



大阪市立総合医療センター 3階 さくらホール
 大阪市都島区都島本通2-13-22

最寄り駅

- 大阪メトロ（谷町線）都島駅 2番出口から西へ徒歩3分
- JR西日本（大阪環状線）桜ノ宮駅 東出口から北へ徒歩7分

【事務局】

総合診療科 後藤 仁志

初期急病診療部 山口 利昌

お問合せ：地域医療連携センター 藤井・藤本

☎06-6929-3633（直通）